

前略

ヨコハマ市民です

平成九年横浜市民生活白書

中央ヨコハマ ☎262-0050

横浜市立図書館



2012868610

館内

付録のフロッピーディスク(又はCD)をご希望の方はカウンターまで申し出てください。

1997-1

はじめに



現在、私たちを取りまく社会経済情勢は、めまぐるしく変化しています。それは、地域社会へも影響を及ぼしつつある少子化・高齢化の波であり、また成熟期を迎えた経済状況であり、それらを背景に人々の意識は変化し、価値観は多様化しつつあります。また、私たちは一方で、いじめ問題などを抱える教育現場の改革や、震災対策にとどまらない危機管理や、震災対策にとどまらない危機管理

体制の確立、国際化する社会のなかで担うべき役割の見直し、急速に進展する情報化社会への対応など、様々な課題に直面しています。それらの変化や課題に対応するため、国レベルで社会の仕組みを変えるための考え方が模索され、議論されはじめています。しかし、これらの環境の変化の中で、私たちは、生活者としてこの横浜に暮らして

います。三百三十万都市である横浜も、私たちにとつては生活のステージである、という目で足元から見直してみた時に、日々の暮らしの中の「生活環境の変化」が、具体的な形をとるものとして見えてくることでしょう。

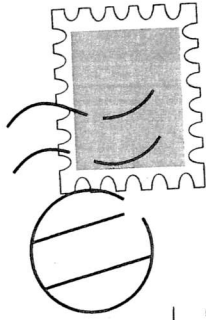
今回の市民生活白書は、市民生活の実態を、横浜市が毎年実施している「横浜市民意識調査」における「生活の心配ごとは何か」という質問への回答で、近年の上位を占める四つの生活の課題、「仕事・職場」、「住宅・暮らし」、「子育て・教育」、「病気・老後」をテーマごとに市民の方々へのインタビューを素材として浮き彫りにしようとしたものです。そして、この白書をおして、私たち横浜市民が持つ、そして解決していかなければならない共通の課題を把握することができたら、と考えています。ご一読していただければ、「ああ、そんなこともある、ある」という共感をもって、本白書を「横浜市民の暮らし」について語り合う素材としてご利用いただけるのではないのでしょうか。

二十一世紀を迎えるまであとわずか、とは言えその日を境に劇的な変化が訪れるわけではありません。新しい横浜をつくりあげるためには、今からその日に向かって着実に一歩一歩を踏みしめていかなければなりません。

今回の市民生活白書を、皆さんとともに新しい横浜のまちづくりを考える礎としてご紹介できれば幸いです。

平成九年十月

横浜市長 高秀秀信



前略 ヨコハマ市民です

平成九年 横浜市民生活白書

横浜は今—都市環境の成熟化と定住化社会の到来— 2	市民生活の課題—子育て・教育 49
本書とCD-ROMについて 8	子育て・教育の心配ごと／教育費／育児・保育相談／育児・保育所／
市民生活の課題—仕事・職場 9	仕事・子育て／子育て活動／5歳児は幼稚園に行く子が多い／塾／
仕事・職場の心配ごと／若者と仕事／女性と仕事／中高年と仕事／	学校生活—一部活動—／いじめ／子どもの不安・悩み／学校五日制／放課後／
定年後の仕事／横浜の仕事	習いごとやクラブ／地域と子ども／進学と将来の職業／子ども・親・保育
市民生活の課題—住宅・暮らし 29	市民生活の課題—病気・老後 69
住宅・暮らしの心配ごと／定住意向／マンション大規模修繕／	病気・老後の心配ごと／病気の心配／老後は別居志向／様々な老後／
高齢化社会と住宅／暮らしやすいまち／震災対策／	増えるひとり暮らし／ひとり暮らし高齢者と在宅サービス／高齢期の準備／
住宅の改築—耐震改良工事—／地域活動—自治会と防災—／	介護のこと／痴呆性高齢者の介護／介護の知恵／介護とボランティア活動／
地域活動—社会参加—／近所づきあい／国際化と暮らし／	心の病と当事者活動／介護とホームヘルプサービス／介護と施設サービス／
都市「横浜」に暮らすこと	新お墓考
	資料編 87

※本書中の写真は、特に説明があるもののほかは本文とは関係ありません。

2012868610

1997-3

前略 ヨコハマ市民です
平成9年 横浜市民生活白書

編集・発行
平成9年10月
横浜市企画局政策部調査課
〒231 横浜市中区港町1丁目1番地
電話 045-671-2029
FAX 045-663-4613

制作
株式会社メタ・メディア・マジック
印刷・製本
株式会社ガリバー

横浜市広報印刷物登録第090365号
種類・分類 A-BA011

定価 1,100円(本体1,048円+消費税)

本白書は、再生紙(古紙混入率50%)
を使用しています。

1997-4